

まぶたが下がる？ 眉毛が上がる？

眼瞼下垂にっくいてっく

社会医療法人全仁会 倉敷平成病院 形成外科

廣瀬 雅史



「眼瞼下垂」という言葉をご存知でしょうか。「眼瞼」が「まぶた」が「下垂する」下がる」ことを指します。眼瞼下垂症は、先天性（生まれつき）の場合と後天性（生まれたあとになる）の場合があります。今回は後天性のものについてお話ししたいと思います。

眼瞼下垂が起こるとどのような症状が出るかというと、単にまぶたが下がって視野が狭くなるだけではなく、まぶたが下がると頭痛や肩こりの原因になることもあります。まぶたが下がることで前頭筋というおでこの筋肉を使って眉毛をあげてまぶたを開けようとします。常にその筋肉が緊張することで、頭痛や肩こりを引き起こすのです。また、おでこのシワができたり、まぶたの上が窪んだようになり老けた印象になります。

では、どうして眼瞼下垂になるのでしょうか。最も多いのは加齢に伴うものです。本来まぶたをあげるのは、眼

瞼挙筋という筋肉が収縮して挙筋腱膜という膜が瞼板という上まぶたにある板状の組織をもちあげることで成り立っています。しかし、コンタクトレンズの長期装用や、アトピー性皮膚炎、花粉症や癬などでまぶたをこすること、眼瞼挙筋が伸びたり挙筋腱膜と瞼板がゆるんだりはずれて力が伝わらなくなり、まぶたが開きにくくなるのです。最近では、アイプチやアイテープ

といった二重をつくるメイク道具が原因でなることも増えていきます。その他には、眼窩脂肪が多くなることや、皮膚そのものがたるむことでまぶたの上に組織がかぶさることもあります。

加齢以外にもたくさん要因があり、①神経性下垂症（腫瘍や外傷などによる動眼神経麻痺やホルネル症候群）②神経筋接合性下垂症（自己抗体の刺激伝導障害による重症筋無力症）③筋性下垂症（遺伝性の外眼筋ミオパチー、眼筋麻痺型片頭痛、ミトコンドリア脳

筋症）④内分泌性下垂症（甲状腺ホルモンによる甲状腺眼症）⑤外傷性下垂症⑥炎症性下垂症⑦腫瘍性下垂症⑧偽性下垂症（顔面神経麻痺や眼瞼痙攣による）など様々なものがあります。当然、まぶたが下がっている場合はこれらの鑑別診断を行わなければなりません。神経内科や眼科で検査し、場合によってはお薬などで改善することもあります。

加齢性の眼瞼下垂については基本的に手術での治療を行います。①挙筋腱膜と瞼板がゆるんでいる場合…まぶたの上の皮膚を切って、挙筋腱膜を瞼板の正しい位置にナイロン糸で留めなおします。②眼窩脂肪が多い場合…まぶたの上を切って、眼窩脂肪を切除します。③皮膚が余っている場合…まぶたの上もしくは眉毛の下の皮膚を切除します。

何となくまぶたが下がってきたかなと感じたら、年のせいだからと諦めず

施術時間	片側45分
痛み	局所麻酔時の痛み 施術後、時々チクチクする程度
術後の症状	翌日から洗顔可 3日～1週間強い腫れ 完全消失まで約1～2ヶ月

に形成外科や眼科にご相談ください。鏡を見てまぶたが下がっていない場合も、がんばって眉毛をあげてまぶたを開けているかもしれない。知らず知らずのうちに頭痛や肩こりを引き起こしていることもありますので、眼瞼下垂を治すことでより快適な日常生活を送ることができるようになるお手伝いのできたら幸いです。